

神戸ユダヤ共同体跡地に残る石垣 山本通1丁目

戦火の渦が世界を覆いつくそうとしていた1940（昭和15）年、迫害を逃れて集まったユダヤ人に対し、杉原千畝在リトアニア領事代理の人的行為によって日本通過ビザ、いわゆる「命のビザ」が発行され、約5,000人を超えるユダヤ人が命を救われたことは国内外で広く知られている。

その後「命のビザ」を受けて来日したユダヤ難民は、当時日本最大のユダヤ人組織のある神戸の「神戸ユダヤ共同体」（神戸ジューコム）で受け入れられ、ユダヤ難民救済活動拠点として生活や情報などあらゆる支援を受けた。しかし、ユダヤ難民が神戸市民とのあたたかい交流とともに最長1年近い滞在を経て、神戸港から世界各地へと亡命を果たした事実について、地元でさえもあまり語られていないのである。

この度、事実が風化することを危惧した地元の賛同有志によって、この先人による人種・宗教の垣根を越えて助け合う真の人間性の発露の記憶として、永遠に語り継がれることを願い、中心的役割を果たした、神戸ユダヤ共同体跡地に残る石垣に案内板を設置するに至り、除幕式を挙げる運びとなったのである。

場所：神戸市中央区山本通1-6-35（神戸電子専門学校南側石垣）

